



虹の架け橋

令和元年5月7日
印西市立西の原小学校
校長室便り No. 25

10連休が終わりました。皆様はどのような連休をお過ごしになられたでしょうか。

5月1日(水)、新元号「令和」がスタートしました。憲政史上初めて迎えた「退位による改元」は、日本中の人々を歓喜の渦に巻き込んでいるように感じました。新しい元号が始まることへの期待と希望が胸に広がる「令和」の年に、本校の教育活動も明るく前向きに推進していきたいと、決意を新たにしているところです。

「子どもを変えるには、親が変わらないとね」

…ある保護者の方から

昨年度から子どもたちの様子などを見てきた中で、秋頃からA君の変化に目を奪われるようになりました。昨年度の前半～中盤には、学習にも生活にもなかなか前向きに取り組めなかったA君。それが、授業中の態度が変わってきたのです。今年度に入ると、リーダーとして前に立ち、下学年に言葉をかける姿も見られるようになりました。

A君を巡っては、担任とA君のお母さん(Bさん)の間で何度も言葉のやり取りがありました。時にはBさんから諦めの言葉も聞かれることもありました。そんな中で、今年度になって担任から「子どもを変えるには、親が変わらないとね。」というBさんの言葉を聞かせることができました。

私は、直接Bさんと話がしたくなり、先日、面談の機会をいただきました。Bさんが教えて下さったこと。それは、親が変わろうとすればそれをちゃんと子どもが見ていて、子どもも変わろうとするということでした。お料理が嫌いだったと言うBさんですが、先日は1キロも唐揚げを作ったそうです。お子さん達はそれはそれは喜んで、ペロリと食べ尽くしたと嬉しそうに話して下さいました。家族で登山をしようと決め、そのための体力作りとして夜に親子で走っている話等をうかがい、BさんとA君を始めとしたお子さん方の頑張りが目に浮かんでくるようでした。

親が頑張っている姿を見せることで、子どもも頑張ろうとすることがBさんのお話の随所から感じられました。ただ、複数いるお子さんそれぞれ個性が違い、なかなか思うようにならないこともあるそうです。けれども、確かなことはあります。子どもはほめられると喜びます。小さな努力、小さな一歩を認めほめ、本気になって体中で喜ぶことが子どもを変えるためにはとても重要だということです。

A君の変化にはお母さんの変化があったこと、そして今も、とても前向きに明るく子育てに向かっていることに感銘を受けました。昨年度の学校便り(第3号)にも書きましたが、まさに東井義男先生の「子どもは喜びの方向に伸びる」という言葉通りの子育て談話でした。

西の原小学校応援団の皆さんも、Bさんのようにお子さんに限りない愛情を注いでいらっしゃると思います。もし、Bさんのような母親・父親奮闘記、祖父母奮闘記があればお聞かせください。子ども達の成長には、子ども同士のネットワークは勿論、それを取り囲む保護者同士、地域の方、そして教職員のネットワークをよりよいものにしていくことが大切だと思っています。情報を交換したり共有したりすることが、子ども達がよりよい方向に伸びていくための一つの手立てになってくれることを願っています。



1年生を迎える会

4月26日（金）、1年生を迎える会を行いました。

6年生に手を引かれて、1年生が入場しました。1年生のかわいらしさもさることながら、6年生になってまだ1ヶ月ですが、最上級生となった子ども達の姿がとてものもしく見えました。

前半は、西の原っ子委員会の企画・運営による「入学おめでとうの会」です。初めての集会活動の運営は大変だったことだと思いますが、準備・練習していたことがよくわかる司会・進行ぶりでした。レクは、じゃんけん列車や西の原小学校〇×クイズなどで大変に盛り上がりました。中に「校長先生の名前は久門恵子である・・・〇か×か」というクイズがあり、ほとんどの子が正解をしてくれたのでホッとしました。



当日は雨天のため、後半の縦割り班活動は校舎内で行いました。縦割り班活動では、6年生はレクのルールをなかなか理解してもらえず、説明に四苦八苦していたようです。けれども、なんとかルールを理解してもらった後は、楽しそうにレクを行う姿があちらこちらで見られました。ここでは、6年生は勿論、6年生に協力をして下学年をリードしている5年生が光り、高学年としての意識と行動力の高まりを感じました。

昼食も校舎内で取りました。青空の下でなかったことは残念でしたが、お弁当を頬張る子ども達の笑顔は幸せそのものでした。早くからのお弁当作り、ありがとうございました。

昨年度の「1年生を迎える会」では、子ども達に「縦割り班の友達の名前を覚えましょう」と話したところ「無理」という言葉が返ってきました。今年も子ども達に「縦割り班の友達の名前を覚えましょう」と話しましたが、今年は「無理」という声は聞こえませんでした。(心の中では思っているかも?)児童数が増えてきており、異学年交流の機会がなかなか作れない西の原小学校です。今年も縦割り班で掃除を行っていきます。異学年交流をする中で、異学年同士が関心を持ち合い、上学年が下学年の面倒をみたり思いやりする心や態度、下学年が上学年を敬い感謝する心や態度を育ていけるよう指導・支援に努めて参ります。保護者の皆様、地域の皆様、応援をよろしくお願いいたします。

